



源注拾遺卷第四

明石 冷標 遂生 関屋 繪合 松風 薄雲 橙 未通女



關雅文庫

桑原文庫

天壤文庫

源注

明石

一 櫻井のついでに山崎のついでに...

世中のいふはまの奥のこころ...

一 一とあるは〇〇果六月入雨と...

よ常たぬうのち礼をねと...

きぬと清の二首のなほ...

一 一とあるは此の 孟若の河原...

一 一とあるは〇〇今果和物云...

略震大雨也青浦日本松記云...

少くもいふは氷降と大ぬ...

一 一とあるは又作一と此...

一 一とあるは〇〇はれ八...



秋の夜半の月を照らす
河

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

一歩も歩かぬ静寂の夜
花の香も空に散る

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

花の香も空に散る
月夜は静かに照らす

あしき世に... **権**

一 入道の法... 〇今東葉盛集の...

一 〇世の終... 〇世の終...

一 〇世の終... 〇世の終...

〇世の終... 〇世の終...

〇世の終... 〇世の終...

一 〇世の終... 〇世の終...

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

私十八年
不審あり
一十八年
ハハラク

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

一 〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

一 〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

一 〇今東和名才八播磨國明石郡須美又同郡首江布知あり

○世が... 勅撰の外... 勅撰の外... 勅撰の外...

一 秋入... 秋入... 秋入... 秋入...

○万... 万... 万... 万...

我... 我... 我... 我...

物... 物... 物... 物...

一... 一... 一... 一...

念... 念... 念... 念...

一... 一... 一... 一...

物... 物... 物... 物...

一... 一... 一... 一...

○今案遊仙... 今案遊仙... 今案遊仙...

一... 一... 一... 一...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. There are several lines of text, with some words or phrases highlighted in red ink. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. There are several lines of text, with some words or phrases highlighted in red ink. The script is dense and difficult to decipher without a key.

こゝ新訂の書物ありては、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

いづれも、
いづれも、
いづれも、
いづれも、

にんげん...
一

一 けつ...
一

○ けつ...
一

あ...
一

は...
一

是...
一

聖子内親王

○ けつ...
一

ら...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

一 けつ...
一

Handwritten text in a cursive script, oriented vertically on the right page of the manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a cursive hand. The characters are closely spaced and flow together in a continuous line. The text is located in the upper right quadrant of the page, with some faint horizontal lines visible in the background.

